



東広会ニュース

1月号

2020年(令和二年)

Vol.187

発行所 東京都渋谷区恵比寿南1-5-5
JR恵比寿ビル10F

東日本鉄道東京広告会

電話 03(5447)7928

E-MAIL info@tokokai.jp

新春を祝う「賀詞交歓会」開催

新年恒例の東広会主催 令和二年「賀詞交歓会」を1月7日(火)18時から飯田橋のホテルメトロポリタンエドモントで開催した。

交歓会には、東日本旅客鉄道(株)常務取締役事業創造本部長 新井健一郎様、(株)ジェイアール東日本企画取締役会長 東川 一様、(株)ジェイアール東日本企画常務取締役交通媒体本部長 橘 修様、JR東日本メディア(株)代表取締役社長 島田 亮様、公益社団法人日本鉄道広告協会会長 新井良亮様はじめ多数のご来賓をお迎えし、総勢約300名の参加者が懇親を深め、新年に相応しい賑わいで盛大な交歓会となった。

会場では、壇上での挨拶に代え新井健一郎JR東日本常務取締役、原口 宰東広会会長の「新年のごあいさつ」が配られた。(挨拶文掲載)



新春を祝い、乾杯の首頭を飾る
JR東日本 新井常務取締役

東日本旅客鉄道(株)常務取締役 事業創造本部長 新井健一郎様のごあいさつ

新年にあたりまして、年頭のご挨拶を申し上げます。

旧年中は格別の御高配を賜り有難うございました。また、日頃よりJR東日本ならびに弊社交通広告をご利用いただきまして、心から御礼申し上げます。昨年、日本列島を襲った度重なる台風は各地に大きな爪痕を残しました。弊社においても、一部の線区で甚大な被害を受け、中でも長野新幹線車両センター構内および新幹線車両の冠水に伴う影響は、皆様に多大なるご心配とご迷惑をおかけしたものと存じます。この場をお借りして、深くお詫び申し上げます。

一方、昨年の弊社を振り返りますと、

一昨年に掲げたグループ経営ビジョン「変革2027」を達成すべく、「次世代新幹線開発」の試験プラットフォーム「ALFA-X」の落成や、駅ナカシェアオフィス事業「STATION WORK」の本格稼働、鉄道利用で貯まるポイントサービスの開始等、一つずつ着実に変革を推進してまいりました。そして本年、いよいよ「高輪ゲートウェイ」駅が開業いたします。その他、竹芝ウォーターフロント開発「WATER take shiba」のグラウンドオープンや駅開発工事の開業を多く控え、皆様に弊社の新たな姿をお披露目できる一年になろうかと存じます。

また、来る国際的なスポーツイベントを契機とした更なるインバウンド需要の拡大や技術の進化を着実に取り込みながら、リアルで重層的なネットワークを最大限に活かして、本年もお客さまのご期待に応える新しい価値・サービスの提供に向け邁進してまいります。

交通広告におきまして、本日お集まりいただいている皆様に引き続きご愛顧いただけますよう、各種施策の実行と合わせて、今後も魅力ある新規媒体開発や次世代の交通広告媒体の創造に、弊社グループ一体となって一層励む所存でございます。

本年もご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健康と各社様の益々のご発展を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

東日本鉄道東京広告会会長 原口 幸あいさつ

2020年の年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

旧年中は東日本鉄道東京広告会の活動に格別のご高配を賜り、誠にありがとうございました。

昨年は世界情勢の不安定さや国内では消費税増税などによる国内需要の低迷が影響したことに加え、広告主様のコミュニケーションがより一層デジタル領域へと加速し、マス4媒体を中心に広告需要の低下が顕著となり、交通広告も近年に無い厳しい状況が続いた一年となりました。また一昨年、首都圏11社局で運用を開始した交通広告デジタルサイネージ入稿データ共有プラットフォーム「TADSS」では、12社が加わり全国23社局に拡大し運用を開始するなどデジタルシフトへの対策



中締めをする東広会 原口会長

を着実に進めた年でありました。

さて本年は、交通広告にとって大きな転換期であることは言うまでもありません。今夏には国際的なスポーツイベントが開催されることから、国内需要が高まることに加え、訪日観光客へのコミュニケーション手段として交通広告が大きなインパクトを与える媒体であることをアピールできる最大のチャンスであります。また海外企業などが、日本においてコミュニケーションをする上では交通広告が最適であり、日本独自のリアルロケーションでのコミュニケーションの価値を認知していただけると確信しております。

一方、春には山手線全編成がE235系に置き換わり車両デジタルサイネージが大きく前進し、新たに実装された機能等を活用したコミュニケーション手法を打ち出していくこととなります。また、新駅開業となる高輪ゲートウェイ駅、大型駅改良工事となる原宿駅、新橋駅、新宿駅では媒体開発が加速いたします。これらのデジタルサイネージや既存メディアとデジタルテクノロジーや様々なソリューションとの融合により、リアルロケーションメディアとしての新たな交通広告の確立に向け走り出す年となります。

皆様には本年も交通広告の更なる販売をお願いするとともに、当広告会につきましても何卒ご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

皆様のご健勝と各社様の益々のご繁栄を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

車両メディアと駅ポスターセットと 車内・駅デジタルサイネージを活用した展開を実施

車両メディアと駅ポスターセットと車内・駅デジタルサイネージを活用した展開が実施された。

広告主は株式会社早稲田アカデミーである。

車両メディア「3線群まど上」の展開にあわせて、駅ポスターセット「連貼セット 首都圏A」、「単貼セット 中央ライン」、「新宿南口セット」、「池袋セット」の展開の他、車内デジタルサイネージ「まど上チャンネル」と駅デジタルサイネージ「J・ADビジョン（ステーションネットワークセット）」を活用した展開が実施された。



3線群まど上



東京駅 連貼セット 首都圏A

車両メディアと駅ポスターセットと車内・駅サイネージを連動させることにより電車内や駅構内通路等、様々なシーンでの広告訴求が可能となり、首都圏の鉄道利用者の動線に沿った連続的な広告展開が実施された。

展開期間は「3線群まど上」「連貼セット 首都圏A」「単貼セット 中央ライン」「新宿南口セット」「池袋セット」「まど上チャンネル」「J・ADビジョン（ステーションネットワークセット）」ともに11月4日(月)から11月10日(日)まで。

<2019年度 第3四半期 媒体別売上実績>

(単位:百万円)

媒体		第 3 四半期				4 月～ 12 月累計			
		2019年度	2018年度	前年比	増減	2019年度	2018年度	前年比	増減
車両メディア	中づり	781	893	87.4%	-113	2,678	2,956	90.6%	-277
	まど上・ドア上	757	857	88.4%	-100	2,261	2,481	91.1%	-220
	ドア横新B	702	845	83.1%	-142	2,441	2,609	93.6%	-167
	ステッカー	694	751	92.3%	-58	2,024	2,132	94.9%	-108
	ADトレイン・車体広告	309	369	83.6%	-60	983	959	102.5%	24
	新幹線・ローカル・他社線	87	98	88.2%	-12	321	292	109.9%	29
	車内デジタルサイネージ	2,603	2,532	102.8%	71	6,993	6,629	105.5%	364
計		5,932	6,346	93.5%	-413	17,702	18,057	98.0%	-355
駅メディア	駅ポスター	532	590	90.2%	-58	1,483	1,568	94.6%	-85
	SPメディア	803	952	84.3%	-149	2,293	2,310	99.3%	-17
	サインボード	1,844	1,864	98.9%	-20	5,505	5,661	97.2%	-156
	フリーペーパーラック 店舗ラッピング	124	133	93.1%	-9	382	407	94.1%	-24
	駅デジタルサイネージ	822	812	101.2%	10	2,310	2,227	103.7%	83
	計	4,124	4,350	94.8%	-226	11,974	12,173	98.4%	-199
メディア計		10,057	10,696	94.0%	-639	29,676	30,230	98.2%	-554
その他（工事　他）		143	15	985.6%	128	176	45	391.4%	131
総計		10,200	10,711	95.2%	-511	29,852	30,275	98.6%	-423

J企「2019年度第3四半期売上」まとまる

J企交通媒体本部の2019年度第3四半期売上は、102億00百万円、対前年95.2%となった。メディア別では、車両メディアは対前年93.5%で、駅メディアは対前年94.8%となった。2019年4月から12月累計では、298億52百万円となり、対前年98.6%となった。

■車両メディア(第3四半期実績59億32百万円、対前年93.5%)

「中づり」「まど上」は、大口出稿の減少等により前年度を下回った。「ドア横新B」は割引販売等により前年度を下回った。

「ステッカー」「ADトレイン・車体広告」は大口出稿が減少したこと等により前年度を下回った。

「車内サイネージ」は「まど上チャネル」の出稿増や企画商品の積極的な販売等を行ったことにより前年度を上回った。

■駅メディア(第3四半期実績41億24百万円、対前年94.8%)

「駅ポスター」は、「一般ポスター」「セット商品」ともに前年度を下回り、全体で前年度を下回った。

「SPメディア」は、「イベント」「SPボード等」「集中貼り」「自動改札ステッカー」ともに前年度を下回った。

「サインボード」は、日暮里駅等で計画開発を行い、前年度に引き続き「予約販売」等の販売に努めたが、工事支障等の影響により、前年度を下回った。

「駅サイネージ」は、大口出稿が増加したことや企画商品の積極的な販売を実施したこと等により前年度を上回った。

「横浜中央通路ライトアップシート」の展開を実施

横浜駅において「横浜中央通路ライトアップシート」の展開が実施された。

広告主は学校法人神奈川大学である。

「横浜中央通路ライトアップシート」は、横浜駅中央通路の6つの柱に、ライトアップされた広告が連続して掲出できるメディアであり、今回の展開は横浜駅利用者の関心を集めた。展開期間は10月28日(月)から11月3日(日)まで。



横浜中央通路ライトアップシート

